

平成30年度第5回社会教育委員会議 会議録

日 時 平成31年3月19日(火)

15時～16時30分

場 所 第2庁舎 2階北会議室

出席委員 山口議長、小林副議長、岩井委員、大澤委員、北岸委員、佐藤(明)委員、
佐藤(天)委員、藤島委員、渡辺委員（9名）

欠席委員 大橋委員（1名）

事務局 教育委員会：瀬能部長、山口次長

勇払公民館：佐藤副館長 美術博物館：武田主査

科学センター：松本副館長、島崎主任指導員

生涯学習課：白川課長、藤原主幹、斉藤主査、田中主査、久保専任主事

1 開 会 白川課長

2 挨 拶

山口社会教育委員会議議長

3 議 事

(1) 第五次生涯学習推進基本計画に基づく取組状況報告

議 長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見等ございますか。

委 員 1ページの説明のあった子ども発達障害の相談事業についてですが、今のご説明では、発達相談希望者が多いので、相談担当者をふやす予定であるというふうにお聞きしたのですが、学校でも、発達障害等、お子さんの発達に対する相談というのは、増えている状況にあると実感していますので、ぜひ、スピード感を増す必要があるのかなと思います。特に新入学、新1年生に入る前に、相談のタイミングがあるので、今の状況の中で、3カ月程度を要した場合にはタイミングを逸してしまうということがありますので、ぜひ、相談担当者をふやす、または時期を早めるであるとか、そういったことで、相談者のニーズに合った相談事業に改善していただけるとありがたいと思っています。

議 長 まさに現場の声だと思いますので、行政も検討していただければ、助かります

けども。まだ取り組みの1年目ですから。これからですので、今の意見をご参考にされたらいかがかと思えます。

事務局 わかりました。今聞いた意見も含めて、担当課にフィードバックしていきたいと考えております。

委員 発達相談の希望者が多いということですが、最近、特に多いというのは伺ってありました。この3カ月程度を要しているということは、これは例えば年代とか、就学前とか、どの程度の範囲の190件という件数は把握してらっしゃる数字なのでしょうか。そして3カ月程度を要しているということは、年度変わりに急に増えるわけではなくて、年度途中にもそういう相談というのは継続して、1回で済まない場合は2回とかあると思いますが、相談体制とか、その辺のところをもうちょっと詳しく教えていただきたいと思いました。

議長 中身の問題ですね。

事務局 担当課でないですが、相談から実施されるまで3カ月程度、時間を要しているといったところが、やはりB評価になったところがあるというふうに感じております。今後どういう対応をするのかといったところも、まだ、担当課でも3カ月かかっているのを2カ月、1カ月と縮めるような方策とか、取り組みをしていくのではないかと感じておりますけれども、詳細までは把握していない状況ですので、ご理解いただきたいと思えます。

委員 今、関連してなんですけど、所管というのは、行政、教育委員会以外に、行政の市長部局とか、非常に広範囲ですよ。これは一部局で、例えば、私たちは社会教育委員という立場で、ここに来させていただいていますが、これだけを把握するって、すごく大変なことだと思いますけど、担当課に対して、具体的にどういう形で投げかけて、反映されていくのか。どのように把握、掌握できているのかを知りたいと思いました。

議長 横のつながりですね。

委員 そうです。

事務局 この項目についてどれだけ達成できていますかという自己評価を生涯学習から各担当課に文書でお送りしまして、回答も文書でいただいています。申し訳な

いのですが、このため詳細のところまでは、聞き取れていないところがあります。このB評価、C評価と評価されている部分で改善を求めている点が相当な数があると、我々も今後どういう対応をしていけばいいのかと思いますけれども、今、C評価が1点で、B評価が2点という形で、先ほどのB評価の発達相談のご意見に関しては、電話で、こういう意見がありましたので、また来年度に関して同じような照会で評価いただきますけれども、その前に取り組み状況をもらうような形をとっていただければと思います。計画をつくって1回目の評価なものですから、どのようなことが横のつながりとしても生かされていくのかというの、いろいろ考えながらやっていきたいと考えております。

議長 そのほかございますか。まだ取り組みの1年目ですからね、まだまだ、これから問題点が現実に出てくるかなという気はしますけどね。とりあえず1年目の報告ということで、事務局がご提示された資料でございますので、その辺は加味してもらえれば。
皆さん、何かご意見ございますか。

委員 10ページのボランティアの、文化交流センターが主催したということ自体がどうしてかということがわからないのですけれども、その辺のところをもう少し深く掘り下げていければ原因がつかめるのかなと思います。この基本計画の中の200何項目かあるのですけれども、ボランティアが係わっている項目というのは、何%ぐらいあるのですか。今出てこないですよ。余りこういうことを意識しないで、多分、文化交流センターでお題目を並べてやっていたと思うのですよね。もしそうであれば、ちゃんと分析をしてもらって、どういうところに今現状のボランティアが興味を持って、どこに力点を置いて、市民が参加しているのというのをきちんと分析すれば、おのずと、次にどういうことやろうかと、もう少しボランティアの数が増える、あるいは質の高いボランティアに提供できるものが出てくると思うのですけれども、どこが所管したらいいのかと出てくると思いますので、その辺の分析からしていただければありがたいと思います。

事務局 文化交流センターも、やはり今のまま同じような取り組み方をしても、参加者が募れないという思いがありまして、事業の大幅な見直しが必要という考え方も持っておりますので、そこら辺、ボランティアさん等々との分析をしながら、今の意見を参考に文化交流センターにフィードバックし、伝えていきたいと考えております。

委員 それで一度、この項目の何%ぐらいボランティアが参加しているかというのは、ちょっと出してもらえればありがたいのですが、出ますか。

議長 その点については、次の会で事務局のほうから知らせてもらうということで、よろしいですか。そのほかの委員、ご意見ございますか。

委員 子育て支援センター、子育てルーム云々と書いてありますが、ホームページでちょっと調べたら、苫小牧市子ども・子育て支援事業計画というものが見つかったのですが、古い資料でしょうか。その辺に関連しているのか、国のほうで何名を配置するだとか、何かそんなものが載っていたと思うのですが、苫小牧市子ども・子育て支援事業計画というのが何かあるのかなど。

議長 事務局でわかりますか。

事務局 すみません。そこを押さえていないので、計画に沿っているものなのか、どうなのか、そういったところもちょっと確認させていただきたいと思います。

委員 お願いします。

議長 ご意見ございますか。

委員 苫小牧マラソンの件ですけれども、評価は、これは恐らく各課、自分のところで行っている評価だと思えるのですが、去年に比べて、明らかな参加者減になっているのに、評価がB評価になっているというのは、どうなのでしょう。数値目標が出しづらいものに関しては、そんなに目立たないのですけれども、明らかに参加者が減っているにもかかわらず、概ね達成しているというのが、ここに出てきてしまうと、これは本当に目標を達成しているのかと素人目には見えてしまうのですけれども、これはどういうふうに考えているのでしょうかね。

議長 主管課の評価が、果たしてBに該当するのか見直したほうがいいのかという提言ですか。

委員 そうですね。数値がないものに関しては内部的なこともありますし、目に見えない部分も、当然、出てくるのですが、参加人数が大幅減しているにもかかわらず、目標は概ね達成していますよねというふうに書かれると、素人目に

見たら、これは本当に評価達成しているのというふうに疑問に思いますよね。

事務局 これは、警察とのやりとりがあって、平成30年度は一般公道を使ってする種目に制限がかかったという、何か理由があったみたいです。

委員 ええ、ちらっと聞いています。

事務局 そういったことで、当初は予定どおり開催する予定だったのですが、調整がうまくつかずに、この数字がこれだけ減ったといったことですので、今年度は、確かに申込者は減ったのですが、予定どおり企画はしましたということで、B評価なのかなという気がします。今後、こういった形で、数値目標を立て、それに対して、どう評価していくのかといった視点が必要かなと思います。ご指摘のとおり、数値目標の視点といったところも担当課のほうに伝えたいと思います。

委員 そもそも何で今年はだめだとなったのですか。私は、だんだんボランティアが少なくなってきて、警備の人数が足りなくなってきたので、だめな雰囲気になってきたと聞いているのです。先ほど2、3回ボランティアの話が出てきましたけれども、あちこちの項目でボランティアが出てきていますよね。そうになると、やはり市民目線からすると、どこに問い合わせたらいいのかわかりづらい。ピンポイントでボランティアする人って、そんなにいないはずで、広い意味で何かやりたいという人が申し込むような窓口がないと、集まるものも集まらないと思うのですけどね。

議長 こういうイベントというのは、警察の警備業務の一環ですけども、近年は、イベントについては、実施主体と主催者の側でガードしてくれという動きが警察ではあるのですよ。花火大会だとか、そういうのも。一般的に自主警備が基本という警察の基本的な考え方があるのですよね。いろんな各種事案についての事故があった場合の対応は、まず自主的にボランティアの方々に、もしくは主催者の方にやってもらうというのが基本的なことですよ。

委員 警察も人員が少ないから主催者でやってくださいということは、主催者でボランティアを集めなきゃだめだということですね。

委員 マラソンは、各町内会とか地域にも応援を求められて、地域からも交通安全指導員とか、いろんな方が参加していらっしゃいますから、私もわからないので

すけど、地域の町内会で出そろって、人数は確保できていると思っていましたけど、交通整理は警察の方がちゃんと来てやっていらっしゃる。

事務局 その公道の使用の仕方、ハーフマラソンの開催が困難とあって、何が原因だったのかということも、担当課に確認しながら、来年度、評価の仕方、数字的に減になっているものをBという評価でいいのかどうかといったところも含めて、精査していきたいと考えていますので、よろしくお願い致します

議長 よろしいですか。その他、委員さんでありますか。

委員 障がい者のためのパソコンボランティア体験研修会と、前のページ、9ページの障がい者のためのパソコンボランティア体験研修会という同じ項目があるのですが、これって違いは何でしょうか。評価も違うので、恐らく何か目的が1つずつ違うのかなと思うのですが。

委員 同じ事業になるのですけれども、計画の項目によって振り分けているので、計画の項目ごとに指標を評価しています。地域の学習支援に取り組むNPOやボランティアの学習機会の充実というものに対する評価というところだったので、ボランティアを募集してはいるのですけれども、増にはなかなかつながっていないということから、こちらの指標はBにしています。10ページのほうは、ボランティアが学習する機会を作っているという評価です。

事務局 障がい者のためのパソコンボランティア体験講習会は、肢体不自由の方と目が不自由な方に対して、障がい者用のパソコンソフトを利用して、パソコンを教えるという講習会で、事業としては同じ事業を行っているのですよ。ただ、項目は若干違いますが、わかりづらいので、もう一回、精査をしていきたい。10ページには、ボランティアの体験講習会とPMFの苫小牧講演を支えるボランティアといったところの2項目あるので。PMFの演奏会やるときには、ボランティアの方々、20数名集まっていたいて事前の事業、それから当日の演奏会の会場の支援等々手伝っていただいているというのがあります。それをプラスした中にも、A評価なのかどうかということも、精査させていただきたいなというふうに思います。

議長 よろしいですか。

委員 この場にふさわしいかどうかかわからないですけど、先ほど、ボランティアというお話が出たのですけども、ボランティアということ定義づける難しさというか、参加する難しさというか、そういうのが、実際にあるのではないかなと思います。例えば、オリンピックとか自然災害のボランティアとか、これは非常に注目され、たくさんの方がボランティアにかかわった。ところが、教育行政とかに関しては難しい。ボランティアの内容の関心度の高低によって、引いてしまったりすることもあるって、ボランティアの中身の連絡、徹底というか、募るときにそういったことが必要なのかなという気がしました。

議長 目的ですね。ボランティアの目指す目的が何かということ。

委員 明確にしていけないと。

事務局 今回でいうと、社会教育委員会議5回目、その前に、子ども読書の計画のときにも、ボランティアさんとの係わりといったところで、いろいろとご指導いただきまして、ボランティアと市がどうつながっていくのかといったところも、最終的に答えが出ないような状況で、今後の課題として、今回の計画のボランティアも含めて、まだまだ推進していかなければならないといったところもあります。今、委員から言われましたとおり、何をするためのボランティアなのかといったところははっきりしていけないと、ボランティアになりたい方々がどういうタイミングで手を挙げたらいいのかといったところも、なかなかつかめてこれないと思いますので、研究させていただきたいと思います。

議長 そうですね。

委員 そういった意味で、市民ホールのときに、ボランティアがかなり必要になると思います。市民参加という意味で、市民ホールだけの問題じゃなくて、他の問題も含めて、トータル的にやっていかないと、蓋をあけたけど誰も手伝ってくれないと今までより悪くなるとは嫌なので、みんなで作り上げたというホールにしたいから、そういう道をつくっていただくと大分違うと思うのですよね。その辺も考えて、お願いします。

事務局 今のお話は、結構大きい話で、所管も市民ホール準備室で、建設の仕方といったところも、いろいろ見ている状況ではありますので、一概に、ここでそうですねという話もなかなか難しいと思いますけれども、そこら辺も連携していかなければならないなと思っています。

議 長 よろしいですか。

委 員 子どもたちのボランティアスクール事業ですとか、ウィンターキャンプやサマーキャンプ、そして、つみきの会とつながってくると思うのですけれども。つみきの会は、いろんな学校の子どもたちが集まることでの楽しさというの、つみきを経験している子たちはよく言っている、そういうところも絡めながら、どうやってこれから支援していったら子どもたちが活動できるのかということ。また、そういうことをしたことによって、将来、またボランティアをやろうと思えるときが来たときにやる循環。町内会なんかはすごく頑張っている子ども会とかもなさっていると思うので、そういうところをどうやって下支えするかというあたりを、市としても、お力を何かしていただけると、子どもたちが育って行って、循環していくのではないかなと思いつつ発言させていただきました。

議 長 大事なことですよね。全体を見て、これからの解決の方法をどう導き出すかということは、大事なことだと思うのです。行政担当者は、その辺、参考にしてもらえれば。

委 員 いいですか。この中の個別の話ではないのですけれども、苫小牧市の地域特性に合った生涯学習の項目というのが余り見えてこないのですけれども、そういったものを考えるとかということはないのですかね。苫小牧でいくと、港だとか、スケート、アイスホッケーだとかありますよね。地域の特性、資源みたいなものが。それに特化したような生涯学習の項目というのがぱっと見たところ、そういった文字が出てこないのですけれども、苫小牧市の強みというか、特色に合ったような学習をするようなものが、ここに入ってきてもいいのかなと思つたのですけれども、そこら辺はどうでしょうか。

議 長 いや、生涯学習の絡みは、全道では珍しい、全国でも珍しい、ナナカマド教室というのがあって、これを苫小牧市では、生涯学習課が主管しているわけですよ。各自治体ではそういう取り組みが余りないのですよね。だから、それが1つかもしれないけど、もっと苫小牧市なるものがないかという提言ですよ。

委 員 そうですね。身近な話題でいけばアイスホッケーは、釧路がなくなりましたよね。何十年後に王子がなくなる可能性だってあるわけでしょう。そういったときに苫小牧市の資源が一つ失われるわけですよ。だから、そうなる前に、特

に子どもたちに向けて、大切なんだよと教えていくようなものがあったらいいのではないかなと。親として、思ったのですけれど。

事務局 この生涯学習の推進計画は、昨年作成しまして、苫小牧市の総合計画という、市の大きい計画をもとに基づいた生涯学習推進計画という中身ですので、アイスホッケーは市全体の中でうたってないのであれば、そういうかかわり合いを持ちながら、項目としては挙げている部分もあると思います。ただ、今言われましたとおり、生涯学習の推進計画、評価の項目の中では、全国的にも珍しい何か事業を行っているかと言われますと、なかなか難しい部分はあると思います。この生涯学習の推進自体が、国でも、北海道でも、率先している部分がありますので、それに取り残されないような取り組みといったところで、どの自治体でも同じ取り組みというのが多いのかなというふうに思っているところでもあります。

今後考えていくのも必要ではないかというご意見に関しましては、この第5回は2022年度までの計画です。2023年度ときには、また第6次という計画を作っていかなければならないので、そのときには、また苫小牧市として、この生涯学習で何ができるのかといったところも、皆さんのご意見を聞きながら考えていきたいと考えております。

議長 生涯学習教育というのは幅が広がりますよ。今年はこれをやろうと進めて、それをクリアして、また別なターゲットをつくる。ここの繰り返ししかないと思うのですよね。今出たご意見を参考にして、よろしく願いいたします。

(2) 平成31年度生涯学習課・各施設の事業概要について

議長 ただいまの説明について、質問、意見等ございますか。

委員 3ページ目の生涯学習課のところ、学習情報の充実と云々、それと生涯学習関連施設の活性化の云々と書いてある。これは、事業費はゼロという考え方でいいですか。

事務局 そうですね。生涯学習だよりなどは、その前のページにも、生涯学習だよりの発行とありまして、こちらに事業費が入っているという状態で、再掲していません。ホームページ、フェイスブックなどの情報提供は、特段、事業費がかからないものですし、紙代等は他の事業費に入っているということになります。

委員 市史編集事業費ってありますよね。市史ね。これ何年前かに多分やっていて、何か学校の先生のOBさんが、お手伝いしていたようなことも聞いていたのですけれども、図書館の費用のほうで、収集だとかありますよね。それと、どういう役割分担をしているのかなと思って。結局は、市史編集のほうもそういう資料を集めなきゃならないですね。それでチョイスして企画をしていかなきゃならないのですが、普段どういう集め方を、計画があって、それに対して図書館側で集めていくというのか、そういう流れというのはどうですか。

事務局 市史編集事務局を平成29年に立ち上げまして、今30年ですから2年前です。その前、市史の追補編というのを発刊したのが平成12年で、20年近く市史は編集されてない状況です。資料に関しましては、図書館に事務局を設置しているのですけれども、図書館の資料も参考にしながら、市史編集事務局で、いろんな情報、会社さんで作成している社史だとかを参考にしながら、そういうところの資料集めを収集していくという状況であります。

委員 そうすると、図書館側でやっている地域内出版物、郷土関係資料の重点集中とかとは、また違うということになるのですか。

事務局 そうですね。関係性がないわけではないのですけれども、市史は市史として、市史編事務局の中で資料を集めたり、あとは昔の苦小牧の情景を知っている方、古い方々に聞き取り調査、そういうことをしながら、市史をつくり上げようという考え方で、進めているところでございます。

委員 わかりました。

議長 そのほかにありますか。
図書館の関係ですけれども、洋書コーナーのボリュームがちょっと薄いのではないかという気が。これからは、IRであったり、外国人がどんどん入ってくる可能性がございますよね。そうすると、日本文化を知ってもらうためにそういう書物も図書館で置いたほうがいかがかなと。これは、ご参考までですけれども。

事務局 確かに、今おっしゃられた洋書も、29年にある程度計画をつくった中で、充実していく資料の一つとして、購入等を進めてきたものでございます。洋書コーナーの、向かいにあるのは、ヤングアダルトコーナー、青少年向けの本です

とか、そのあたりの充実をさせてきたところなのですけど。確かに、IRであったり、駒沢大学に留学生が来て、ほかの地域、海外から、苫小牧に来ている方もたくさんいらっしゃいますので、そういうことも踏まえて、少しずつかもしれないですが図書館の充実させる資料の一つとして、洋書を考えております。

議長 わかりました。これから社会が変わってきそうだから、その辺は充実していただけないかなということです。

委員 一つだけ聞いてもいいですか。勇払の公民館が社会教育費の中に入っているというのは違和感があるのですけれども。

事務局 勇払公民館につきましては、社会教育施設の一環の建物、生涯学習の機能を持って、サークル活動だとか講座を自主的にしております、社会教育施設の一つとして位置づけられていますので社会教育費の中に入っております。

委員 これは勇払だけですね。

事務局 公民館は、過去には2館あったのですけども、現在は勇払のみでございます。

委員 勉強不足で教えてもらいたいののですけども、市内遺跡発掘調査は今どこを発掘しているのですか。

事務局 苫東地域内ですね。企業誘致のため、試掘調査というものをしておりますので、埋蔵文化財があるかどうかというのを確認した上、そこに企業を誘致していい場所かどうかというのを確認する作業を埋蔵文化財の担当課がやっております。

議長 そのほか、ご意見ございますか。

委員 すみません、もう一つ。中央図書館のところで、課題解決支援という項目があるのですけど、何かすごく魅力的な文言なののですけれども、最近、平成31年、2年から始まっていく新学習指導要領、小学校、中学校で、何があっても課題解決できるような子どもに育てようということで、いろいろ文科省から出ています。特にそういう小・中学校の子どもたちを育てていくための社会教育施設というのが、苫小牧には色々あって、教室もそれぞれやられていますよね。学習指導要領にあるように、それに沿って質の高いものを目指してい

くのか、そういう方向に行くかどうかというのを聞きたいと思います。例えばプログラミング教育なんかは、出たときは相当迷ったと思うのですよね。僕ら社会教育のほうで携わっている者も、最近、やっとプログラミング教育を全国で始めたばかりなのです。だから、そういう意味で、全教科に関係する学習指導要綱なので、その辺を社会教育施設として、どういうふうに捉えているのか、ちょっとお聞きしたいなと思います。

議 長 どうですか、事務局。

事 務 局 図書館の課題解決支援という部分ですけども、市民がどういうことによって、それに対して、こういうものがありますよとか、調べもののお手伝いといえますか、そういう部分が基本にあるんですね。例えば市民の方がこういうものはどういうふうに調べたらいいのでしょうかというお話に、こういう本がありますよとか、こういう機関がありますよとか、そういう部分のお手伝いです。あとは例えば、高齢化が進んで、医学とか興味を持たれている方もいらっしゃると思いますので、市内の病院と連携して、医学講座などを開いて、そういう情報提供ですとか連携を進めながら、課題解決支援に取り組んでいきたいと思っています。

委 員 取っかかりは、その質問で、最後の質問はちょっと違うのだけれども。要は、社会教育施設で、これから学校教育を補完する上で、どういった学習指導要領に乗った補完的教育をしていくのかというところ。お話を聞いてお手伝いしたことがあるのですけども、学習指導要領を全く読んでなくて。今回、社会教育から見た点で、新学習指導要領とか、子どもたちに少しでもプラスになるようにと考えて、いろいろ知恵を出し合っている中で、各施設が、特に小・中学校生を教室に呼んだりしたときに、社会教育としてどういう指導要領をしていくのかという前向きな研究をしているのかを聞きたかったのです。

事 務 局 科学センターは集中的に学習する場で、学校の理科教育と非常に密接につながっている施設だと思います。教育指導要領の前回の改定の際にも、教科書等、確認をして、その内容と合うような形でやってきたというふうに思います。今後につきましても、指導要領は大きく変わるのですけれども、それにつきましても、改めて十分把握しまして、学校利用ではないのですけれども、どこが違って、何が共通しているのかという基本的なところを押さえて、その違いを生かした、学校では難しいような、いろいろな実験、体験のできる場的なものを考えていきたいなと思います。

それにあわせて、小学校の校区であれば、子どもだけで来れるのですけれども、

保護者が必要な年齢層でありますので、その子どもたちの実験、体験を、親と一緒に体験してもらおう進め方をしていきたいというふうに思います。

委員 英語教育だとかも入ってきて、だんだんと学習機会が少なくなってくるのですよ。それが社会教育にやっぱり影響が出ちゃいけないなと思うので、回数を増やすよりも質の高いもの、これからはそういうものは新学習指導要領もそうですし、質の高いものを求めていったほうがいいのではないかと。指導書をきちっと書いて、そういうものに、子どもたちを呼んで、色々とやる。そういうことをしていけば、ある程度、学校を補完する上では、いろいろと反省点などもわかってくるだろうから、そんなような形でやられると理想かなと思います。

議長 参考意見としていただければ、いかがかなと思います。よろしいですね。

(3) その他

子どもの読書活動推進計画のお礼と、次回の会議予定について説明。

4 閉会